

のせ通信

株式会社 能勢建築構造研究所



奈良県吉野郡吉野町 金峯山寺

絵：

のせ通信

二〇二四年夏 第二号

目次

- 当社の歴史について II
- 自己紹介
- 「有田陶器市」にて
- 史上最強の表計算ソフト EXCEL
- 椅子張り体験教室
- 特別企画 結婚報告インタビュー
- 春の BBQ 大会 (写真)
- 納豆のふわとろ焼き

「有田陶器市」にて

毎年春の連休には佐賀県有田町で約1週間に渡って開催される陶器市に行くのがここ数年の我が家の恒例行事となっています。

有田町は佐賀県の西に位置し長崎県に接する山間の町であり、この「有田駅」から上有田駅の約4kmの通りに陶器の市場ができ、例年たくさんの方が陶器を求めてやってきています。値段も市価の半分近いものとなり器の好きな人にはたまらない祭りではないでしょうか。



人気のある香蘭社の前です

祭りの名前は「有田陶器市」となっていますが、有田で生産されているのは「陶器」ではなく「磁器」です。陶器と磁器は土をこねて焼いた同じような器ですが陶器と異なり、磁器は土の成分にガラス質をたくさん含みそれを高温にて焼いて作成されているのでガラスのような薄くて透明感があり、なおかつ強い器をつくることのできるのだそうです。



裏通りの窯元

塀は不要になった耐火煉瓦で作られ「トンバイ塀」と呼ばれています。



トンバイ塀

趣のある塀です、町のいたるところでこの塀が見られます

ここで、日本の磁器について調べてみたことを書いてみます。日本に磁器ができたのは豊臣秀吉の朝鮮出兵のおり朝鮮半島の陶工を日本に連れてきたことに始まるそうですから今から約400年前となります。その陶工の中に李参平という人がおり、この李参平が有田町の泉山で磁器に適した石を見つけて磁器を作り出したのが日本の磁器の発祥となるそうです。現在、有田町の陶山神社にてこの李参平を陶祖として奉っています。祭神を陶祖としているのでこの神社の鳥居、狛犬、欄干などあらゆるものが磁器にて作られて他の神社では見られない風情となっていますので、有田に行かれた折には一度たずねてみてはいかがでしょうか。

現在、私たちはこのあたりで作られる焼き物を総称して「有田焼」と呼んでいます。昔は有田地区で作られた焼き物を伊万里港から日本国内はもとよりヨーロッパにまで出荷していたので、この港の名前より「伊万里焼」と呼んでいたそうです。現在では、有田の近くの伊万里市大川内で焼かれる磁器が伊万里焼と呼ばれています。この伊万里焼きは江戸時代では藩の御用釜であったので、現在でもこの地区をおとずれると店の人たちは「有田は庶民の焼き物だけれど、伊万里は殿様の焼

き物なので格が違う」と今でも非常に高いプライドを持っている事に驚かされません。

今、有田にたくさん的人气窯元がありますが、その中でも特に人気があり、みなさんも一度はきいたことのある窯元をいくつか紹介します。まず有田といえば一番にあげられるのは酒井田柿右衛門ではないでしょうか。初期の磁器の絵付けは藍色のみで作られていましたが初代の柿右衛門が赤色を作り出し白地に柿色にて絵付けを施して柿右衛門様式を生み出し、現在の有田の名声を高めた第一任者といえる人です。窯元は有田町の中心部からはずれたところにありますがおとずれてみると、名前のとおり庭に大きな柿の木が植えられているのが印象的です。屋敷内に展示即売所もありますので懐具合よい方はいかがでしょうか。二番目に上げられるのは今泉今衛門ではないでしょうか。この窯元は元々絵付けを生業としていたので、今でも華やかな絵付けを施したものに人気のある窯元です。ちなみに、ローマ法王が日本を訪れた時に使用した食器はこの今衛門釜にて焼かれたそうです。三番目が「有田三衛門」と呼ばれているものの一つ源衛門釜です。もちろんここも窯元ではありませんが、今ではインテリアや生活雑貨なども作っており手頃な値段で求める事ができます。最後に紹介したいのが近代の有田焼発展の基となった窯元というより会社組織として発展した「香蘭社」です。ここではモダンなデザインを施した器を作成し値段も手頃であるので陶器市でも人気のある窯元のひとつです。

いろいろと有田磁器について話をしてきましたが、関東関西在住の方も春の季節の良い時期にゆったりと焼き物を見ながら町を散策してみたいかがでしょうか、近くには、武雄温泉、嬉野温泉や佐世保ハウステンボス等の宿泊施設もありますよ。



香蘭社のコーヒーカップ
カップの内側にも絵付けが施されています



源右衛門窯で購入したカップです



夫婦で制作している店で買ったぐい呑み
模様はプリントではなく手書きだそうです



娘の結婚のために購入した蓋付の湯呑

椅子張り体験教室

趣味とは違いますが、最近、阪神甲子園駅近くのワークショップで椅子張りという初体験をしましたので、参考までにご報告します。

まず参加者は4名、講師は30代とおほしき女性1名、ほかにお店の方でお手伝いして下さる方がいます。

材料と道具は以下になります。

材料 イケアの白木の丸スツール
(組み立て前の状態)・ウレタン2枚・60センチ四方以上の布

道具 接着用ボンド・ブラシ・マジックペン・カッターナイフ・電動ドリル・電動タッカー

作業工程

① 厚めのウレタンを座面の大きさにカット。
② カットしたウレタンと座面の両方に、ブラシでまんべんなくボンドをぬり、軽く乾いたら貼り合わせる。

③ 一回り大きい薄めのウレタンと②のウレタンの両方に、ボンドを塗り、同様に貼り合わせる。座面の縁にもボンドを塗り、ウレタンでくるむように貼る。座面の裏からはみ出たウレタンは、カッターナイフで切り取る。
④ 布地の中心線を決め、下から布、ウレタン、座面となるように中心で合わせ、一方の布端を座面の裏にタッカーで止める。反対側の端を強めに引っ張って同じくタッカーで止める。

⑤ 中心線から90度回転した布端も同じように止める。



⑥ 4箇所を止めたら、二人一組になり、90度分の布地を強く引っ張ってもらい、布が均等になるようにタッカーで細かく止める。全周を止めたら余分な布をカッターナイフで切り取る。
⑦ 布テープで切れ端と⑥で止めたタッカーの針を隠すように、タッカーで布テープを止めていく。最後まで綺麗に始末する。

⑧ 電動ドリルを使い、スツールの足をボルトで座面裏に止めていく。4本共止めたら、水平な机の上に置いて足のがたつきを見る。がたつきがあれば机の上に貼り付けた紙やすりで、椅子の足を動かして削り調整する。

⑨ これで椅子張りは完成、パチパチ。お店が用意してくれたケーキと紅茶で歓談タイムです。

最後に一言

作業をしながら写真も

撮ってと慌ただしく過ぎましたが、お気に入りの作品が出来、大満足でした。私の椅子は左の水色です。



講習費(材料代込み) 4,500円

生地代(当ショップで購入可) 2,203円